

○ 新型コロナウイルス感染症による後遺障害は、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き第3版」に以下のように記載されている。

- イタリアにおける143人の患者調査では、COVID-19から回復した後（発症から平均2ヶ月後）も87%の患者が何らかの症状を訴えており、特に倦怠感や呼吸苦の頻度が高かったという。
- その他、関節痛、胸痛、咳、嗅覚障害、目や口の乾燥、鼻炎、結膜充血、味覚障害、頭痛、痰、食欲不振、咽頭痛、めまい、筋肉痛、下痢などさまざまな症状がみられたとされている。
- アメリカの報告では、COVID-19と診断された270人のうち、175人（65%）が検査日から中央値7日で普段の健康状態に復帰し、95人（35%）が検査から2～3週間経過後も「普段の状態に戻っていない」と回答した。

○ 新型コロナウイルス感染症の後遺障害の国内の発生状況を含め、明らかにするために令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）において、研究を開始したところ。今後は、研究の結果を適宜報告していく。

後遺障害に関する課題	研究課題名と研究代表者
後遺障害としての頻度が高いとされる、呼吸苦がどういった患者に起こり、どれくらい持続するのか、どれくらいの重症度なのか等が明らかでない。	研究課題名： COVID-19感染回復後の後遺障害の実態調査 研究代表者： 横山彰仁（高知大学 呼吸器内科学教授）
国内における新型コロナウイルス感染症による後遺障害の頻度がどれくらいで、どのような症状あり、どれくらい持続するのか等が明らかでない。	研究課題名： 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の長期合併症の実態把握と病態生理解明に向けた基盤研究 研究代表者： 福永興壺（慶応義塾大学 呼吸器内科学教授）
新型コロナウイルス感染症でおこる味覚障害・嗅覚障害がどれくらい持続し、どのような味覚・嗅覚に障害が起こるのか明らかでない。	研究課題名： 新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚障害の機序と疫学、予後の解明に資する研究 研究代表者： 三輪高喜（金沢医科大学 耳鼻科学主任教授）

課題1 後遺障害としての頻度が高いとされる、呼吸苦がどういった患者に起こり、どれくらい持続するのか、どれくらいの重症度なのか明らかでない。

研究課題名: COVID-19感染回復後の後遺障害の実態調査

研究代表者: 横山彰仁(高知大学 呼吸器内科学教授)

概要: 呼吸機能検査や胸部CT検査を用いて呼吸機能障害の後遺障害の原因、持続期間、重症度等を明らかにする。

対象施設: 呼吸器学会研修施設群の基幹施設および連携施設:700-800施設から承諾を得た70施設。

対象者: COVID-19に罹患して酸素投与が必要で中等症II以上だったすべての20歳以上の症例(1000人)。

課題2 国内における新型コロナウイルス感染症による後遺障害の頻度がどれくらいで、どのような症状あり、どれくらい持続するのか等が明らかでない。

研究課題名: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の長期合併症の実態把握と病態生理解明に向けた基盤研究

研究代表者: 福永興彦(慶応義塾大学 呼吸器内科学教授)

概要: 日本におけるCOVID-19合併症の実態把握を行う(アンケート)。また、COVID-19合併症に関連するバイオマーカーの探索・遺伝学的解析を実施することを目的とする。

対象施設: 北海道から九州まで全国40施設

対象者: 対象施設で、これまでCOVID-19に感染した20歳以上の患者(1000人)

課題3 新型コロナウイルス感染症でおこる味覚障害・嗅覚障害がどれくらい持続し、どのような味覚・嗅覚に障害が起こるのか明らかでない。

研究課題名: 新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚障害の機序と疫学、予後の解明に資する研究

研究代表者: 三輪高喜(金沢医科大学 耳鼻科学主任教授)

概要: 新型コロナウイルス感染症患者を対象に嗅覚と味覚障害の発生率や特徴に関して簡便なアンケート調査と嗅覚味覚検査を実施すると同時に各症状の経時的な変化や予後を観察する。また、通常の嗅覚、味覚障害の患者と比較することにより、新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚障害に特徴的な所見を見出す。

対象施設: 社団法人日本耳鼻咽喉科学会 新型コロナ感染症対策ネットワーク参加施設(755施設)から承諾を得られた施設

対象者: 入院治療あるいは自宅待機を終えた20歳~60歳までの新型コロナウイルス感染症患者。